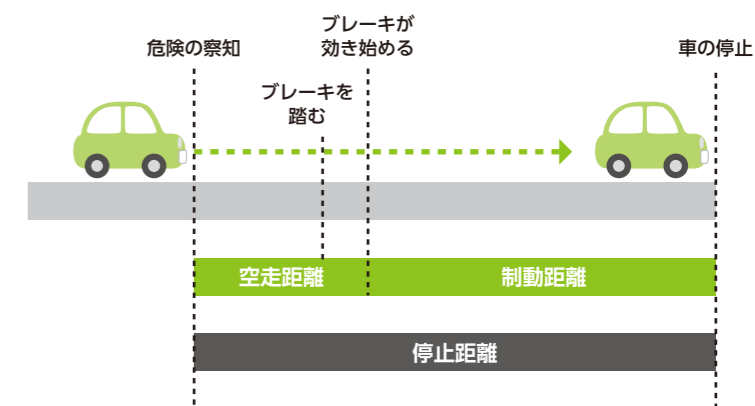


交通安全コラム 第11回

「車は急に止まれない」
空走・制動・停止距離を
理解してスピードの出し
すぎに注意しましょう！

運転中に突然、人や物が飛び出してきた際や、前の車両が急ブレーキをした際など、走行する車両のスピードによっては大きな事故につながる恐れがあります。実際に車が停車するまでは、思っているよりも長い距離が必要です。今回は、制動距離、空走距離、停止距離についてご説明します。



空走距離

運転者が危険を感じてから、ブレーキを踏み、ブレーキが実際に利き始めるまでの間に車が走る距離。

制動距離

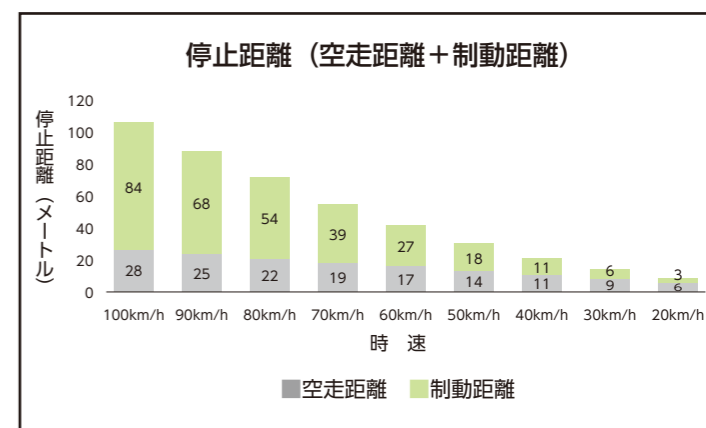
ブレーキが利き始めてから車が停車するまでに走行する距離。

停止距離

危険を察知してから、自動車が実際に停止するまでの距離。停止距離＝制動距離＋空走距離という式が成り立ちます。

時速	停止距離
100km/h	112メートル
90km/h	93メートル
80km/h	76メートル
70km/h	58メートル
60km/h	44メートル
50km/h	32メートル
40km/h	22メートル
30km/h	15メートル
20km/h	9メートル

では、実際に速度ごとの停止距離はどのようなになっているのでしょうか。表の通り、速度が上がれば、停止距離も長くなるのが分かります。



速度のほかに、停止距離が長くなる要因として「運転者が疲労している」「運転操作への反応が遅くなる」と、空走距離が長くなる「雨の日、晴れの日に比べてタイヤのグリップが効きづらく、制動距離が長くなる」などがあげられます。

夏は暑さからぼんやり運転が多くなり、また、帰省など長距離の運転が続き、スピードを出してしまいがちです。ハツとしたときに、自動車での交通事故を起こさないためにも、スピードや車間距離にゆとりを持った運転を心がけましょう。

ーわたしと金山ー

No.17

林 寛治

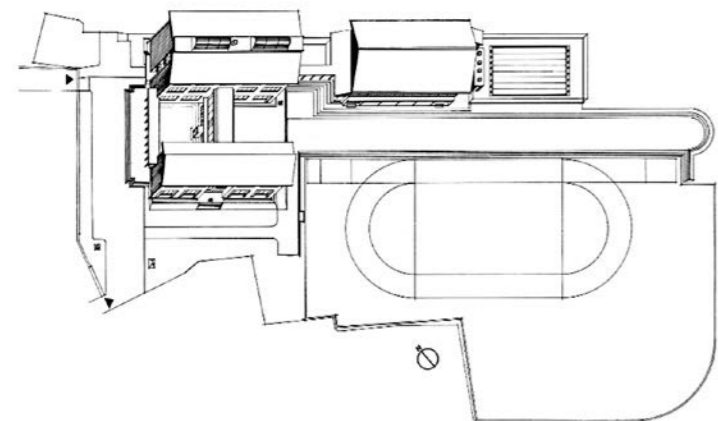
屋内運動場、グラウンド整備、 野外プール完成、竣工式へ

1978（昭和53）年夏過ぎに現在の校舎が完成しました。教職員、生徒共に慌ただしく木造校舎から新校舎に移動しました。これまでの木造校舎を解体して、その跡地に屋内運動場を1979年春までに完成するようにと教育委員会を通じて金山町から指示されていたからです。

屋内運動場（以下、屋体とする）とグラウンド、プールの設計は校舎工事中に並行して始めましたが、屋体の与条件は、各学年2教室の規模から、小さくなりすぎては困るということで、小学校施設の予算では足りず、青年向けのバスケットボール・コートを持った社会体育施設を兼ねたものとする事になりました。冬期間、雪解けが遅い積雪寒冷地であり、2、3クラスが伸び伸びと走り回れる、屋内運動施設を確保したいという金山町・教育委員会と町議会双方で運動した前向きな姿勢を強く感じました。

屋体としての有効面積を生かすために固定のステージとはせず、12m×6mの電動ステージで床下から上下させます。ステージ下部は900脚の折りたたみ椅子の収納スペースになっています。

屋体平面積968㎡の切妻の屋根面積は1000㎡を優に超えるので、楯



▶金山小学校、施設構成図

山裾側にも余裕を持たせた自然落雪を計ったのですが、後に山崩れ止の頑丈な擁壁が設けられ、特に屋体楯山側は、落雪用地としては迫りすぎた感があります。

構造は下部・用器庫部分はRC造で固め、下部に打ち込まれたH形鋼柱に大・小丸鋼全溶接トラスで大屋根を受けています。

新校舎の駐車場を兼ねた西北側のアプローチには昭和10年代に建てられたドイツ下見張りの校舎も残っており、No.15の航空写真の白く見えるグラウンド部分西半分は新校舎を計画しました。

敷地ギリギリの範囲で工事が行われたのです。資材搬入等、工事関係車両の出入りが児童生徒の登下校と重なる場合もあり、双方の安全管理が大変難しかったのが記憶されます。

現在のグラウンドは、当時は1mほど下がった私有地の田畑であり、町有の学校用地ではなかったのです。屋体工事に伴って町は一段下がった田畑を購入し、新グラウンドスペースとして11640㎡を確保しました。基壇と並行した100mの直線コースと一周200mのトラックを設けました。排水効果を高めるために地盤面下には延1070mの透水管を埋設しております。

結果として、楯山の山裾に沿った木造校舎跡地を必然的に全体計画の軸線としました。

グラウンド造成に先んじて16m×25m・水面面積400㎡・8コースのプール計画を実施しました。安心感のあるステンレス・プールとしました。塗装による仕上げで金属感を消しました。コロナが長引き現在の使用状況がどうなっているかが気になることです。

金山小学校・校舎、屋内運動場、グラウンド整備、野外プール、全体の竣工を待って、1979（昭和54）年4月11日に屋内運動場で竣工式が行われました。早稲田大学出身のポニージャックスが数曲を歌ってくれた地味ながら、心温まる竣工式でした。

以前の中山小学校、昨年春の有屋小学校、明安小学校が金山小学校と統合されたことを伺い、今回は、金山小学校建設小史として記しました。

町立金山診療所だより vol.174

ほっとクリニック

「幸せ」について

精神科 医師 手塚裕之

みなさん、こんにちは。令和2年4月から令和4年3月まで金山診療所に勤務していた手塚です。現在月1回、第4月曜日の午後から精神科の外来診療を行っております。多くの患者さんの力になりたいと考えておりますが、だいぶ混み合っており、新規の予約がとれない状態となっております。ご不便おかけしております。予約可能になればまた広報等を通じてお知らせさせていただきます。

突然ですが、皆さん、今幸せを感じていますか？「幸せ」とはなにか。それを科学的に証明しようとする研究、私達が「幸せ」になるには3つの材料が必要とわかってきました。それは①人との交わりがあること②親切をすること③「今ここ」に集中することです。特に幸福な人に共

通する材料は「社会との結びつきが強いこと」が挙げられます。

「自分は内向的だし結びつきがないな」なんてこの文章を読んでいる方もいらっしゃるかもしれません。こんな比較研究が行われました。コンビニやスーパーで買い物をするときにお金を用意しながら最小限でも話をしたり、笑顔で目を見て短い会話をする場合と、全く会話をしない場合です。小さなことのように思えますが、話を全くしない場合よりも「おはよう」や「ありがとう」の一言でも、ほんの少しの会話を通してなんと幸福を感じることができたと報告されています。

また「今ここ」に集中することも大切です。「今ここ」に集中することで、私たちは現在の瞬間を大切に、その瞬間を楽しむことができます。過去や未来に囚われず、「今」を生きることで、心の平和や満足感を得ることができると言われています。

人と接すること。これが幸せの第一歩。あれ？あの人がどうしてるっけ？

この記事を読んだのをきっかけに、今頭に浮かんだ家族や友人に連絡をとってみたり、会いに行ってみてはいかがですか？そしてその会った「瞬間」を感じてみてください。